

NEWS LETTER

Institute of Social Safety Science

地域安全学会ニュースレター No. 63 －目次－

1. 2008 年度 査読論文の募集と投稿方法	1
2. 2008 年度総会・第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）・ 公開シンポジウム（火山噴火と地域の安全を考える）等 開催のお知らせ	7
3. 調査・企画委員会 2007 年度活動報告及び 2008 年度活動計画	9
4. 韓国防災学会（Korea Society of Hazard Mitigation） 研究大会に出席して	11
5. 平成 19 年度 地域安全学会技術賞審査報告	13
6. Information (1) 安全工学シンポジウム 2008 －安全工学の横断的展開	14



地域安全学会ニュースレター
ISSS News Letter

No. 63
2008. 4

1. 2008 年度 査読論文の募集と投稿方法

平成 20 年 3 月
地域安全学会 学術委員会

平成 17 年度から「論文査読システム」は電子申込・電子投稿となっております。2008 年 5 月 22 日（木）正午までの期間内に地域安全学会ホームページ（www.iss.s.info）から、論文申込（講演申込を兼ねる）と査読用論文原稿を同時に投稿してください。

平成 19 年度より、CD-ROM 版論文集を最終成果物として扱うこととしており、カラー図版の使用に関する制約や追加料金の徴収を廃止しました。査読はカラー原稿を前提として行います。一方、冊子体論文集はすべて白黒印刷とし、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承ください。

会員各位の積極的な査読論文の投稿をお願いします。

1. 日程等

- (1) 論文（講演）申込と査読用論文原稿の投稿期限（電子投稿）
平成 20 年 5 月 22 日（木） 12:00（正午，時間厳守）
- (2) 第一次査読結果の通知
平成 20 年 8 月初旬
- (3) 修正原稿の提出期限（電子投稿）
平成 20 年 8 月 29 日（金）
- (4) 「地域安全学会論文集 No. 10」への登載可否の通知
平成 20 年 9 月下旬
- (5) 登載決定後の最終原稿の提出期限（PDF ファイルの電子投稿および白黒原稿の郵送）
平成 20 年 10 月 3 日（金）
- (6) 地域安全学会研究発表会での登載可の論文の発表（論文賞・論文奨励賞の審査を兼ねる）
月日：平成 20 年 11 月 14 日（金）～15 日（土）
場所：静岡県地震防災センター
- (7) 論文賞・論文奨励賞授与式（平成 21 年総会に予定）

2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1 万円／編
- (2) 査読料の納入方法
 - ①期 限：平成 20 年 5 月 23 日（金）までに、②宛てに振り込んで下さい。
 - ②振込先：みずほ銀行 浅草支店
口座名：地域安全学会 論文口座
口座種別：普通口座
口座番号：1 5 4 0 7 3 6
振込者名：筆頭著者
 - ③その他：査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。

3. 登載料の納入

- (1) 登載料（CD-ROM 版論文集 1 枚＋冊子体論文集 1 冊を含む）
6 ページは 2 万円／編、10 ページを限度とする偶数ページの増頁については、5 千円／2 ページ。
- (2) 登載料の納入方法
平成 20 年 10 月 3 日（金）までに、上記「2. (2) ②」の振込先に振込んで下さい。

4. その他の注意事項

- (1) 申込期間の締切りに際して投稿の集中が見込まれます。予期せぬ事態によりサーバーがダウン

ンし、受付ができなくなる恐れも出てきます。締切り間際の投稿は極力避けていただくようお願いいたします。

- (2) 論文（講演）申込と査読用論文原稿の電子投稿の概略（詳細は電子投稿システムの指示に従って入力して下さい）
 - ・申込者の氏名、所属、連絡先、その他の事項を入力する。
 - ・論文題目、著者、所属、連絡先、その他の事項及び論文概要（250 文字程度）を入力する。
 - ・その内容を確認し、必要があれば修正する。
 - ・原稿ファイル（PDF 形式のみ）を指定し、送信する。
 - ・その内容を確認し、必要であれば再投稿する。内容がよければ、申込・投稿を完了する。
 - ・査読結果は申込者の連絡先に送付されますので、日程をご確認の上、確実に受領できる場所をご指定ください。
- (3) 執筆要領テンプレートの入手方法
「論文集の執筆要領」は、本ニュースレターに示す通りですが、電子ファイル「論文集の執筆要領」テンプレートが、地域安全学会ホームページ(<http://www.iss.info/top.html>)の「ダウンロード」にありますので、是非ご利用下さい。なお、審査の公正を高めるため、査読用論文原稿には、氏名、所属および謝辞を記載しないこととしておりますので、ご注意ください。詳細につきましては「論文集の執筆要領」をご参照下さい。
- (4) 申込だけで原稿が未提出のもの、査読料の払い込みのないもの、電子投稿論文が「論文集の執筆要領」に準じていないもの、および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (5) 「CD-ROM 版論文集」には、登載決定後に電子投稿いただいた原稿ファイル（PDF 形式）に、ページ番号を追加して収録しますので、カラー図版に関する制限はありません。査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順で最終原稿の電子投稿をお願いいたします。
- (6) 「冊子体論文集」には、登載決定後に郵送（あるいは宅配便）で提出いただく完全版下原稿を掲載します。平成 19 年度より冊子体論文集は白黒印刷のみとしましたので、白黒印刷の原稿を作成してお送りいただきます。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。

10 月の冊子体論文集用の完全版下原稿の提出先（郵送もしくは宅配便のみ）
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学工学部社会基盤工学科
地域安全学会 学術委員長 能島暢呂 宛

会員の皆様へ 論文査読のご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては、学術委員会にて論文 1 編あたり 2 名の査読者を、原則として会員内より選出し、査読依頼を e-mail で送信いたします。査読依頼の時期は 6 月上旬を予定しております。

地域安全学会の会員各位におかれましては、学術委員会より査読依頼が届きましたら、ご多用中のことと存じますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

査読論文投稿規定

平成11年4月(制定)
平成12-19年3月(毎年改定)
平成20年3月(改定)

地域安全学会 学術委員会

1. 論文の内容

査読論文の内容は、防災および地域安全に新たな貢献が期待できるもので、かつ結論の導出過程が適切であるものとする。
なお、防災および地域安全に新たな貢献が期待できるものであれば、従来の学術論文の体裁にとらわれず、調査報告やコンピューターシステムの開発、訓練方法の提案・実施結果等も査読論文の対象とする。

2. 投稿者

筆頭著者は、地域安全学会会員に限る。筆頭著者として投稿可能な論文数は、一人一編とする。また筆頭著者は、研究発表会において発表し、かつ、討議に参加しなければならない。査読終了後の修正論文における著者の変更や追加は、原則として認めない。

3. 投稿先

査読用原稿、修正原稿、およびCD-ROM版論文集用最終原稿については、電子投稿とする。冊子体論文集用の印刷用オリジナル原稿については、地域安全学会学術委員長宛とする。(原稿の種類については6-6参照)

4. 投稿期限

会告に従う。「地域安全学会論文集」は年1回刊行する予定であり、各年度の「地域安全学会論文集」への投稿期限は、別途、会告する。

5. 査読手続き

5-1 査読実施機関：投稿された査読論文に対し、地域安全学会学術委員会(以下、委員会という)は2名の査読者による査読を行って、「地域安全学会論文集」への掲載の可否を決定する。

5-2 投稿者への問い合わせ：査読にあたって、委員会は筆頭著者に対して問い合わせ、または内容の修正を求めることができる。

5-3 査読の打ち切り：投稿された査読原稿に対する問い合わせ、または内容の修正を求めた期限以内に筆頭著者から回答がない場合には、委員会は査読を打ち切る。

6. 投稿論文の作成および提出

6-1 投稿原稿の内容：投稿原稿は、原則として他の書籍・雑誌において未発表でかつ査読中ではないものとする。また、学術論文として内容が完結していることが必要であり、「同一テーマのもとで分散して投稿したもの」と判定された論文は受け付けない。

6-2 執筆要領の準拠：投稿または修正された査読原稿は、「論文集執筆要領」に準拠していなければならない。

6-3 十分な推敲：投稿または修正された査読原稿は、十分に推敲されたものでなければならない。

6-4 言語：投稿または修正された査読原稿は、和文または英文でなければならない。

6-5 論文申込(講演申込)と査読用論文原稿の電子投稿：地域安全学会ホームページ(<http://www.issss.info/>)の査読論文申込・投稿画面の指示に従って、論文申込(講演申込)と査読用論文原稿の投稿を行う。

6-6 提出原稿の種類：原稿には、査読用原稿(電子投稿)、修正原稿(電子投稿)、CD-ROM版論文集用最終原稿(電子投稿)、および冊子体論文集用最終原稿(郵送または宅配便)の4種類がある。

6-7 査読用原稿の提出：査読用原稿は、地域安全学会HPから論文申込(講演申込)と同時にPDFファイルで電子投稿する。審査の公正を高めるため、査読用原稿には氏名、所属および謝辞は記載しない。

6-8 修正原稿の提出：第1次審査を通過し、修正を求められた者は、修正した論文と修正事由を、最初の投稿と同様の手順によって電子投稿する。ただし、氏名、所属(および必要に応じて謝辞)が記載されたものとする。

6-9 CD-ROM版論文集用最終原稿の提出：CD-ROM版論文集用最終原稿は「地域安全学会論文集」への掲載が決定した後に提出する原稿である。最初の投稿と同様の手順によってPDFファイルで電子投稿する。

6-10 冊子体論文集用最終原稿の提出：冊子体論文集用最終原稿は「地域安全学会論文集」への掲載が決定した後に提出する原稿で、CD-ROM版論文集用最終原稿と同一内容の完全版下原稿である。冊子体論文集は白黒印刷のみとするので、白黒印刷の原稿(カラー版で提出しても白黒印刷となる)を地域安全学会学術委員長宛に郵便または宅配便にて送付する。

6-11 カラーの使用：CD-ROM版論文集は電子媒体なので、電子投稿するPDFファイル(査読用原稿、修正原稿、CD-ROM版論文集用最終原稿)ではカラー図版を積極的に使用してよい。

6-12 ページ数：図・表・写真を含め、最低6ページ、最大10ページとする。

6-13 図・表・写真：図・表・写真は、判読可能な鮮明なものでなければならない。

7. 著作権

7-1 著者は掲載された論文等の「著作権」を本会に委託する。

7-2 著者が自らの用途のために自分の掲載論文等を使用することについて制限はない。なお、論文等をそのまま他の著作物に転載する場合にはその旨を明記する。

7-3 掲載された論文等の編集著作権、著作権は本会に帰属する。

7-4 第三者から本会に対して、論文等の翻訳、図表の転載の許諾要請があった場合、著者に通知し許諾を求める。ただし既に本会会員として所属せず、連絡不能な場合はこの限りでない。

7-5 著者は、本会または本会が許諾した者の利用に伴う変形については「同一性保持権」を行使しないものとする。

7-6 論文等の内容が第三者の著作権を侵害するなど、第三者に損害を与えた場合は著者がその責を負う。

7-7 論文等の著作権の使用に関して本会に対価の支払いがあった場合は、本会会計に繰り入れて、学会活動に有効に活用する。

8. 論文別刷り

「地域安全学会論文集」の論文別刷りは、作成・送付しないものとする。

地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例

Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Journal of Social Safety Science

(査読用原稿では点線で囲まれた枠内には記入しないこと。図形の貼付も不可。
修正原稿では必ず正しく記入すること。)

地域 太郎¹, 安全 花子²

Taro CHIIKI¹ and Hanako ANZEN²

¹ 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

² 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Journal of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

Keywords: *three to six words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line, Times New Roman, italic, 9 point font*

1. はじめに

この「地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例」は、参考文献¹⁾を参考に、「地域安全学会論文集」の原稿作成の指針を示したものです。

この電子ファイル(Word 2003)は、地域安全学会論文集の原稿(和文)を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述したテンプレートです。原稿そのものの体裁(A4)をとっているため、このファイルの中の文章をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。原稿作成にあたっては、このファイルを使用してください。

2. 用紙と基本構成

原稿は、A4判で、次の順に作成して下さい。

- ・ 題目 (和文および英文)
- ・ アブストラクト (英文)
- ・ キーワード (英文)
- ・ 本文 (和文または英文)
- ・ 補注 (必要な場合)
- ・ 参考文献

審査の公正を高めるために査読者には著者名を伏せて査読原稿を送付しますので、上記の点線で囲まれた著者

名(和文および英文)および所属名(和文および英文)の部分は記入しないでください。上から図形を貼付して伏せることも不可です。謝辞も同様に空欄にしてください。また、参考文献として論文中に引用する場合は、「著者らは」など末尾の参考文献と関連して著者名がわかるような記述は避けてください。

平成17年度から、電子申込・電子投稿となりましたので、期間内に地域安全学会ホームページ(<http://www.iss.iss.info>)から、論文申込(講演申込を兼ねる)と論文原稿を同時に投稿して下さい。

査読の結果、修正をお願いすることがあります。修正原稿では、上記の点線で囲まれた所定の部分に著者名(和文および英文)および所属名(和文および英文)を追記し、点線の枠は削除してください。また、隠匿したや謝辞等がある場合についても、必ず追記してください。

3. 論文送付票

地域安全学会ホームページの査読論文申し込み画面で、

- ・ 題目(和文および英文)
- ・ 筆頭著者氏名(和文および英文)、所属(和文および英文)、および連絡先(郵便番号、住所、e-mailアドレス、電話番号、ファックス番号)
- ・ 連名著者全ての氏名・所属(和文および英文)

- ・ 原稿枚数，図・表・写真の枚数を入力し，送信して下さい．同時に，PDF 形式とした査読論文を送信して下さい．

4. レイアウト等

レイアウトは，本要領に従って下さい．ただし，使用するソフトウェアやプリンターの違いによって，文字の大きさや字体，レイアウトの寸法などに若干の差異が生じて構いません．しかし，1 ページ当りの字数に大幅な増減がある場合には，レイアウトの修正をお願いすることがあります．

(1) マージン等

- ・ 上下：各 20mm，左右：各 20mm
(ただし、1 ページ目のみ上：30mm)
- ・ 二段組み本文の段組間隔は 8mm

(2) フォント等

フォントは，原則として，以下の通りとします．

- ・ 題目：和文はゴシック 14pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
- ・ 著者名：和文は明朝 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
- ・ 著者所属：和文は明朝 9pt，左揃え 30mm のマージン．
英文は Times New Roman 9pt，左揃え 30mm のマージン．
- ・ アブストラクト：英文 Times New Roman 9pt，左揃え，左右各 30mm のマージン．
- ・ キーワード：Times New Roman, italic, 9pt, 3-6 語，
2 行以内，左右各 30mm のマージン．
“**Keywords**” は一語でボールドイタリック体．
- ・ 本文：明朝 9pt，行替えの場合は 1 字下げ．
－ 章の見出し：ゴシック 10pt，左寄せ
－ 節，項の見出し：ゴシック 9pt，左寄せ
－ 図，表，写真のキャプション：ゴシック 9pt，
中央揃え
- ・ 補注，参考文献の指示：明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角
を原則としますが，各学問分野の慣例に従っても構いません．
- ・ 補注(必要な場合)：“補注”はゴシック 10pt，左寄せ，
補注自体は，明朝 8pt．
- ・ 参考文献：“参考文献”はゴシック 10pt，左寄せ．
参考文献自体は，明朝 8pt．

(3) 行数および字数

a) アブストラクト

7 行以内として下さい．

b) 本文

二段組みとし，一段当りの幅は 81mm，1 行当り 25 字，行間隔は 4.0mm とし，1 ページ当り 60 行を標準として下さい．したがって，文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります．

(4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて，最低 6 ページ，最大 10 ページとして下さい．なお，査読者による指摘事項を踏まえて加筆・修正することを念頭に置き，最終原稿が 10 ページを超えないように査読用原稿を執筆することを勧めます．

参考文献リストのあとに 1 行空けて，電子申込・投稿した日を投稿受付年月日として，右詰めで書いて下さい．掲載が決定した場合には，最終原稿に掲載が決定した日付を掲載決定年月日として，投稿受付年月日の下に記載してください．

5. 文章および章，節，項

(1) 文章の書き方

文章は口語体によって，とくにカタカナ書きや英文を必要とする部分以外は，漢字まじり平仮名書きとして下さい．私的な表現，広告・宣伝，特定の個人・組織を誹謗する表現は避けて下さい．

(2) 章，節，項のタイトルの書き方

章，節，項の見出し記号と前後の行空け等は，以下の通りとして下さい．

- ・ 章：“1 … 9.”，前 2 行空き，後ろ 1 行空き．
- ・ 節：“(1) … (9)” ，前 1 行空き，後ろ行空き無し．
- ・ 項：“a) …… z)”，前後行空き無し．

6. 式，記号および単位系

(1) 記号等の使い方

式や図に使う文字，記号，単位記号等はできる限り常識的な記号等を用い，必要に応じて記号等の一覧を付けて下さい．

(2) 数式

数式は，式の展開や誘導部分を少なくしてできるだけ簡潔にまとめ，必要に応じて本文中で説明して下さい．また，数式には，式の番号を “[1] …… [9]” とし，右寄せで付けて下さい．

(3) 単位系

単位は，原則として国際単位系：SI⁽¹⁾を用いて下さい．

7. 図，表，写真

(1) 図，表，写真の体裁

CD-ROM 版論文集には，電子投稿された PDF ファイルが収録されますので，カラー版に関する制限はありません．電子出版の利点を活かしてカラー版を使用して下さい．ただし，冊子体論文集は白黒印刷となりますので，白黒印刷の完全版下原稿を別途作成していただきます．

(2) 図，表，写真中の文字，キャプション等

図，表，写真は，最後にまとめて配置するのではなく，関連のある文章の近くに配置して下さい．

図，表，写真中文字やキャプション等は，本文と同じ

言語を用いて下さい。

図、表、写真には、それぞれ一連番号を付けて下さい。

表のキャプションは上に、図および写真のキャプションは下に付けて下さい。

(3) 図、表、写真と文章との関係

図、表、写真をページの一番上または一番下に配置する場合以外、上下 1 行ずつ空けて下さい。図、表、写真は一段のみ、二段抜きのいずれでも構いませんが、図、表、写真の左右には本文を組み込まないで下さい。

図、表、写真は、本文と同じ方向で組み込むことを原則とします。ただし、1 ページ全体を 1 つの図、表、写真とする場合は、本文の方向から 90° 回転することができます。

(4) 図、表、写真の引用について

図、表、写真を他の著作物から引用する場合には、出典を必ず明記し、著作権法に抵触しないよう、著者の責任において原著者等の了解を得て下さい。

8. 補注について

本文中の脚注や注はできるだけ避け、本文中で説明するか補注として本文末尾において下さい。ただし、それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません。

補注とする場合は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、明朝 9pt の上付きで示して下さい。

9. 参考文献について

参考もしくは引用した文献は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、本文中では明朝 9pt の上付きで引用して下さい。末尾の“参考文献”の記述内容は、全ての著者、論文名、雑誌名または書名、巻号、ページ、発行所、発行年の順に記載して下さい。著者が 3 名以上の場合に限り、第 1 著者のみを記載しあとを“他”または“et al.”としても構いません。

原稿受付の段階で登載が決定していない論文は引用できません。公表されていない論文については、査読に際して提出いただく場合もあります。

10. 著作権と著者の責任

「地域安全学会論文集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し、原稿の内容については著者が責任を持つこととなります。したがって、印刷後発見された誤植や内容の変更はできません。誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は、學術委員会の了承を得た上で、著者の責任において、文書で、当該論文が登載されている「地域安全学会論文集」所有者に周知して下さい。

11. その他

(1) 原稿受付年月日

學術委員会により原稿が受理された日付を原稿受付年月日とします。日付については、修正原稿の作成依頼時にお知らせします。

(2) 登載決定年月日

登載が決定した日付を登載決定年月日とします。日付については、最終原稿の作成依頼時にお知らせします。

(3) 登載決定

査読を経た原稿が、本「査読論文執筆要領」に合致していると學術委員会が認めた時点で、登載決定を事務局より通知します。

(4) 査読者等の公表

個々の論文についての査読者名および査読内容は公表しません。

(5) 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は、本文が和文であることを前提として作成した本「査読論文執筆要領」に準拠して下さい。しかし、英文の場合は、和文のタイトル、著者名、所属は不要です。

本文のフォントは、Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい。

補注

(1) 国際単位系

SI は、1960 年の国際度量衡総会で採択され、メートル法の単位をもとに、現代の科学技術および一般の社会活動の諸分野で共通に使用できるよう編成された実用的な単位系で、以下のような長さ、質量、時間、電流、温度、物質質量、光度の基本単位があります。

長さ：メートル(m)	質量：キログラム(kg)
物質質量：モル(mol)	時間：秒(s)
光度：カンデラ(cd)	電流：アンペア(A)

また、10 の整数乗倍の単位を作るために以下のような SI 接頭語が定められています。

10 ²⁴ ：ヨタ(Y)	10 ³ ：キロ(k)	10 ⁹ ：ナノ(n)
10 ²¹ ：ゼタ(Z)	10 ² ：ヘクト(h)	10 ¹² ：ピコ(p)
10 ¹⁸ ：エクサ(E)	10 ¹ ：デカ(da)	10 ¹⁵ ：フェムト(f)
10 ¹⁵ ：ペタ(P)	10 ⁰ ：デシ(d)	10 ¹⁸ ：アト(a)
10 ¹² ：テラ(T)	10 ⁻² ：センチ(c)	10 ²¹ ：ゼプト(z)
10 ⁹ ：ギガ(G)	10 ⁻³ ：ミリ(m)	10 ²⁴ ：ヨクト(y)
10 ⁶ ：メガ(M)	10 ⁻⁶ ：マイクロ(μ)	

参考文献

- 1) 土木学会論文編集委員会：土木学会論文集投稿の手引，論文集編集委員会関連資料，土木学会，pp.8-22，1998.
- 2) Kanamori, H., Aki, K. and Heaton, T.: Real-time seismology and earthquake hazard mitigation, Nature, Vol. 390, pp. 461-464, 1997.

(原稿受付 2008.MM.DD)

(登載決定 2008.MM.DD)

2. 2008 年度総会・第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）・ 公開シンポジウム（火山噴火と地域の安全を考える）等開催のお知らせ

北海道 洞爺湖町で 2008 年度地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度も総会にあわせて、第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）〈一般論文発表会〉を行いますので積極的な参加をお願いします。

■ 第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）および総会等関連行事

○第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）〈一般論文発表会〉

日時：2008 年 5 月 30 日（金）13：00～16：00

場所：洞爺湖文化センター 大ホール

○理事会

日時：2008 年 5 月 30 日（金）16：00～17：00

場所：洞爺湖文化センター 大ホール

○総会

日時：2008 年 5 月 30 日（金）17：00～18：00

場所：洞爺湖文化センター 大ホール

○現地見学会

日時：2008 年 5 月 31 日（金）13：00～16：00

■ 懇親会

場所：洞爺湖文化センター 大ホール

日時：2008 年 5 月 30 日（金）18：30～20：30

会費：一般（6,000 円）、学生（2,000 円）

■ 公開シンポジウム「火山噴火と地域の安全を考える」

場所：洞爺湖文化センター 大ホール

日時：2008 年 5 月 31 日（土）9：00～12：00

◆ プログラム（予定）

司会進行 南 慎一（北海道立北方建築総合研究所）

◇開会挨拶 山崎文雄 地域安全学会会長

◇地元挨拶 有珠火山防災会議協議会 会長代理 長崎良夫氏（洞爺湖町長）

◇第一部 基調講演（30 分）

岡田 弘氏（NPO 法人環境防災総合政策研究機構理事、北大名誉教授）

「(仮) 自然災害と減災支援科学」

◇休憩

◇第二部 パネルディスカッション

主題：地域住民及び産業（農業・観光業等）が有珠火山と共生する道を火山対策（噴火予知と避難・安全宣言に関する直前対策、安全なまちづくりと地域振興に関する復興対策、防災教育等の長期対策）から探る。

コーディネーター 岡田成幸氏（名古屋工業大学）

パネリスト

地域の生活 三松三朗氏（壮瞥町三松記念館長）

地域の観光産業 洞爺湖温泉観光協会

防災まちづくり、エコミュージアム・ジオパーク構想

エコミュージアム推進協議会 田鍋敏也氏（壮瞥町）

火山防災 宇井忠英氏（NPO 法人環境防災総合政策研究機構専務理事、北大名誉教授）

観光と防災 井出 明氏（首都大学東京）

都市・地域防災 熊谷良雄氏（筑波大学）

◇閉会の挨拶 地域安全学会副会長

※ 総会への出欠は今回同封した返信用葉書でご回答ください。

※ 上記の時間は論文発表数により多少の変更があるかもしれません。

※ 見学会の申し込みは、30日に事務局で受け付けますので、ご予約ください。（バス代 徴収予定）

■ 参加費

参加費（研究発表会、公開シンポジウム） 無料

一般論文発表の梗概集 3,000円／冊

懇親会 一般 6,000円／人 学生 2,000円／人

3. 調査・企画委員会 2007年度活動報告及び2008年度活動計画

調査・企画委員会委員長 村上ひとみ（山口大学）

調査・企画委員会では、下記の2つの小委員会が活動3年目で成果を取りまとめる区切りの年となった。小委員会Aは、防災情報共有化のポータルサイト構築を進めて公開準備調整の段階にあり、小委員会BではBCP関連研究について秋の学会にて発表を行った。2008年度は近年の社会的な重要ニーズを踏まえ、新しい2つの小委員会が動き始めます。日本各地の広範な分野で活躍中の学会員各位から関連情報の積極的な提供をお願いします。

1. 2007年度活動報告

小委員会A 「高度実践防災戦略支援システムの開発」

主査：荏本孝久（神奈川大学）、幹事：伊村則子（武蔵野大学）

首都圏直下型地震を始め東海・東南海・南海地震や宮城県沖地震など多くの地域で大地震発生の切迫性が指摘され、日本各地で被害地震が続いている。被害地震の教訓をベースとして、今後想定される地震災害に対して、多くの被害軽減への取り組みが行われ、行政・企業・自主防災組織など組織間の意識と相互連携による地域の防災力評価についても検討されている。しかしながら、地域の防災に関する情報が共有されているとは言い難い。本委員会では昨年度に続き、これらの連携をとるべく、防災に関する情報を整理し、市民に役立つ防災情報ポータルサイトを構築してきた。日々変化するサイトの状況に追従しやすいように、Wikiシステムを使うこととした。2007年度は第10回～第11回の委員会を開催し、防災情報ウェブサイトとしてWikiを活用した支援システムの最終形について協議調整し、公開への準備を行った。

－第10回－

- ・日時 2007年4月28日（土）14：30－17：00 日本女子大学目白キャンパス
- ・話題提供
 - ①川井委員：国際宇宙会議の概要と58th International Astronautical Congressの紹介
 - ②伊村委員：「東京近郊に通う大学生の地震防災に関する認識と行動／防災啓発マニュアル提案」
 - ③石川委員：「平成18年度安全教育プログラム開委員会リーフレット 児童・生徒一人一人に、危険を予測し、回避する能力を育てるために」東京都の全公立学校配布用、紹介
 - ④荏本委員：「防災リスクマネジメントWeb(時事通信社)」紹介
 - ⑤村上委員：「能登半島沖地震調査報告－建物と人の被害－」
- ・審議内容
市民向けポータルサイトの概要、分類並べ替え、挨拶文、追加コンテンツについて協議

－第11回－

- ・日時 2007年6月16日（土）14：30－17：00 日本女子大学目白キャンパス
- ・話題提供
 - ①野中委員：「重大災害等発生時における事業継続計画」
 - ②水田委員：「2007年度防災教育チャレンジプラン 雪国秋田・積雪期の地震対策」
- ・審議内容
市民向け防災情報ポータルサイト コンテンツの検討（文責：荏本孝久 主査）

小委員会B 「企業の災害時業務継続計画（BCP）の基本的考え方に関する研究」

主査：矢代晴実（東京海上日動リスクコンサルティング（株））、幹事：新井伸夫（気象協会）

阪神大震災、米国同時多発テロ、SARS、ハリケーン・カトリーナなどの教訓を踏まえて、災害時などにおいても業務を継続し、企業等を存続させるための業務継続計画（BCP）への関心が高まっている。しかし、その内容は多岐にわたり、日本では統一的な考え方すらない状況であった。

そのため、BCP とは何かについて整理し、リスクマネジメントや危機管理における位置付けを明確にすることを目的に、この小委員会は 2005 年度の活動を開始し、2006 年度からは「地域の BCP(DCP)」、「自治体の BCP」、「BCP におけるハザードについて」、「BCP におけるライフラインの復旧」という 4 つの分科会を設け、それぞれ検討を実施した。そして、それぞれの分科会毎の成果を 2007 年度秋の研究発表会において、一般論文として

「BCP 策定のための地震ハザードマップの作成」

「BCP 策定のための地震被害モードマトリクスに関する一考察」

「BCP におけるライフラインの被害と復旧の扱いに関する考察」

「業務商業地における DCP 実現に向けた企業参加による地域防災活動」

「地方自治体の BCP の特徴とその策定推進に関する考察」

の 5 編を発表した。

	開催日時	話題等
第 9 回	2007/4/13 17:00-19:00	4 つの分科会毎に議論
第 10 回	2007/6/11 17:00-19:30	4 つの分科会毎に議論
第 11 回	2007/7/13 13:30-17:00	「自治体の BCP」について、その実態や策定にあたっての課題などを明らかにするため、関西広域連絡協議会のご協力を得て、関西圏の自治体担当者との意見交換会を実施
第 12 回	2007/9/7 17:00-19:00	4 分科会毎に、成果を一般論文としてとりまとめることを議論

(文責：矢代晴実 主査)

2. 2008 年度活動計画

小委員会 A 「防犯まちづくりに関する社会動向に関する調査研究」

主査 加藤孝明

防犯まちづくり研究に対するニーズを明らかにし、今後の学会の裾野を広げ、学会の発展に寄与することを最終目的とする。その過程では、本学会の特性に照らし、学際的に研究領域を検討することに留意する。今年度は、防災まちづくりの実態調査を行うこととし、防犯配慮型マンション・住宅地の事例調査、地域での防犯活動の実態調査を行い、現状の研究課題を明らかにする。研究の成果は、2008 年度の一般論文として公表する予定である。委員会を 4～5 回開催する予定。第 1 回：問題意識の共有と活動計画の確認、第 2 回：防犯まちづくりを支える要素技術の視察、第 3 回：防犯配慮型住宅建設の視察、第 4 回：繁華街における防犯まちづくりの視察、第 5 回：今年度の総括。なお、第 5 回は必要に応じて開催。

小委員会 B 「環境対策と協調する防災インセンティブの GP データベース」

主査 村上ひとみ

地球温暖化の危機が迫る中で、政府、自治体、企業、市民は温暖化防止の対策、環境保全の対策を速やかに実行する必要性が高い。温暖化の進行は災害激化にもつながり、防災面からの取り組みも重要である。そこで、環境保全の対策と防災対策が相互にプラスになる協調的インセンティブ事例を調査収集し、GP データベースを作成・公開することが活動目的である。

今年度は環境対策と協調する地域防災事例の実態調査を行うこととし、委員会を 4 回程度開催する予定。第 1 回：テーマに関する問題意識と活動計画に関する討議、第 2 回：防災・環境取り組み事例の収集とブレインストーミング、第 3 回：環境配慮の地域防災取り組み事例の視察、第 4 回：今年度の総括。

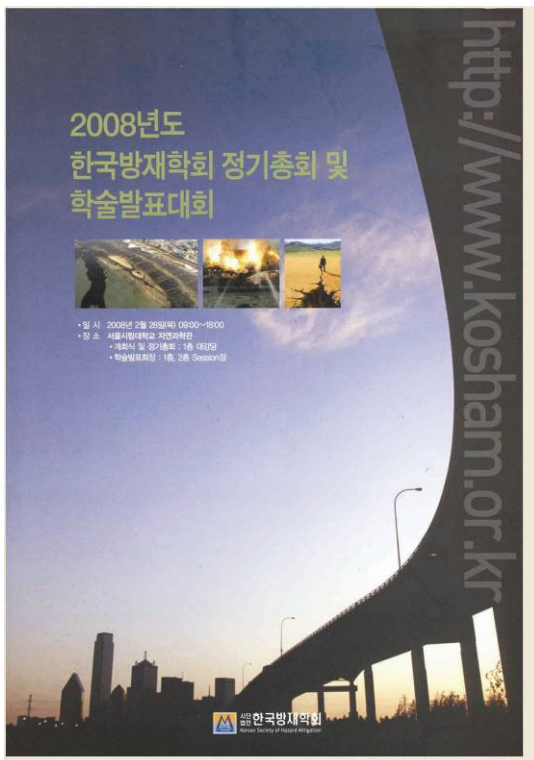
委員を継続して募集中です。関心ある方は、村上 (hitomim@yamaguchi-u.ac.jp) まで連絡してください。

4. 韓国防災学会（Korea Society of Hazard Mitigation）研究大会に出席して

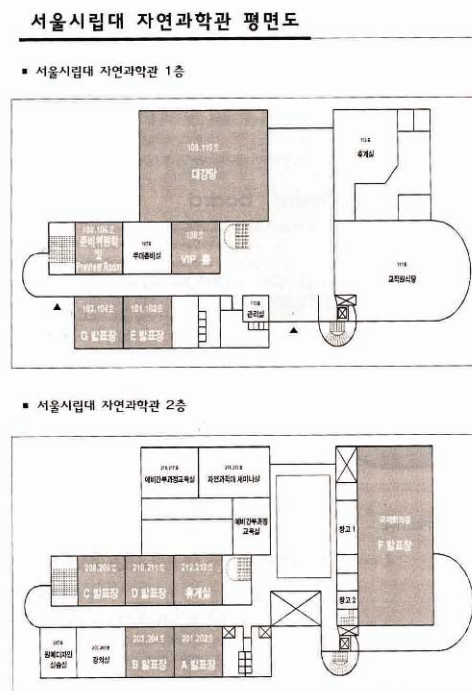
大西一嘉（広報委員会）

平成 20 年 2 月 28 日（木）にソウル市立大学で開催された韓国防災学会の 2008 年研究発表会に、カウンターパートである地域安全学会代表団として佐土原聡理事、村上ひとみ理事と共に 3 名で参加しました。私たちのために大会の最後に特別セッションを設けていただき「神戸の復興まちづくり」（大西）、「福岡県西方沖地震でのマンションの物的人的被害」（村上）、「環境と防災の問題定義」（佐土原）の 3 題の講演を行なってきました。以下はその報告である。

会期は一日だったが、午前中には総会と米国から招いたコンクリート工学の研究者（Prof. James Davidson）の基調講演が行なわれ、受付では約 200 題の論文を掲載した厚さ 4 センチ余りの論文集が用意されるなど数多くの報告が行なわれており、本格的で大規模な研究集会であった。午後からは気象、水害、森林火災、津波、海岸、橋梁、テロ、GIS、災害医療、まちづくりなどテーマ別に様々なセッションが組まれており、7 つの部屋に分かれて、前半（13:30-15:15）と後半（15:45-17:30）それぞれ 6~8 題（報告 10 分+質疑）ずつの口頭発表（全 100 題）が行なわれた。地域安全学会の秋の大会と同様に、別室ではポスターセッション（94 題）も開かれており、多くの参加者が韓国全土から集まっていた。韓国では、1994 年に死者 32 名を出した聖水（ソンス）大橋崩壊事故などで顕在化した橋梁の構造安全问题への関心も高く、構造物の損傷モニタリングシステムに関する論文も精力的に投稿されていた。韓国防災学会の参加者は全般に土木・建築など工学系の研究者が多いと思われるが、日本と交流実績の深い災害医療専門家が学会役員として参画しているなど幅広い分野からの集まりでもある。



大会プロシーディングズ



大会会場の案内図

配布されたプロシーディングの裏面には多くの協賛企業名が印刷され、受付近くには企業による防災 GIS 展示コーナーがあったり、協賛企業名の入った真っ赤な花輪が受付にいたる通路にズラッと飾られるなど、韓国らしさの感じられる華やかな雰囲気満ちている。日本でも民間とタイアップした大会運営手法は珍しいものではないが、当学会にはあまりみられない取り組みであり新鮮な印象を受けた。

ところで、北海道での地域安全学会春季大会実行委員でもある村上先生は、学生スタッフが着用していたタスキをいたく気に入って現物を持ち帰って来られたので、その活用方法をひそかに期待している。なお5月の洞爺湖大会には韓国側からも数人の研究者が来日され、共通テーマによる日本側との研究意見交換が予定されている。



大会会場となったソウル市立大学



会場入り口に並ぶ花輪が雰囲気を盛り上げる



大会受付風景



Prof. James Davidson の基調講演



レセプションでの表彰式



レセプション後の二次会にて

大会終了後には、別室にパーティ会場が準備されており、レセプションが行なわれた。私たちの興味を引いたのは、その場で行なわれた論文賞などの授賞式である。工学系や社会科学系など3つの分野別に、それぞれ若手研究者 5~6 人が次々と前に出て表彰されており、次代を担う気鋭の若手にチャンスを与えて支援しようという姿勢がみてとれた。レセプションを切り上げた後には役員との二次会が用意され、歓待を受けた次第である。

今回お世話になった金理事は横浜国立大学の留学生として佐土原先生の研究室にかつて在籍され、この研究発表会直前までの1年間はサバティカルで日本に滞在し、神戸大学と京都大学で半年間ずつ客員研究者として過ごされていた方である。

5. 平成 19 年度 地域安全学会技術賞審査報告

地域安全学会 表彰委員会

今年度に創設された技術賞の募集に対し計 6 編の論文が投稿され、2008 年 3 月に審査が行われた。

ここでは、その審査要領と審査結果について報告する。

■平成 19 年度「地域安全学会技術賞」の審査要領(抜粋)

1. 受賞対象者

「地域安全学会技術賞 候補業績募集要領」に基づき応募された「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象とする。

2. 審査方法

- (1) 表彰委員会委員全員、学会長、副会長、学術委員長、学術委員会副委員長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長）から構成される技術賞審査会が審査を行う。
- (2) 表彰委員会委員長は、技術賞候補の応募期日後に三分の二以上の構成員を招集し、技術賞審査会を開催する。
- (3) 技術賞審査会では、応募状況の報告、審査方法の確認、および技術賞選定に関する審議と決定を行う。
- (4) 審査は、当該技術の①実績、②有用性・実用性、③革新性・新規性、④一般性・汎用性、および⑤将来性・展開性を考慮した以下の手順に従い、行われる。
- (5) 各審査員は評価シートを用いて、各々の候補技術を上記①から⑤の評価項目に基づき総合的に評価する。そして、すべての候補技術を順位が重ならないように順位づけし、地域安全学会技術賞にふさわしい技術を選定する。
- (6) 表彰委員は、すべての審査員により提出された評価シートに基づき、技術賞受賞候補を選定する。
- (7) 第 2 回技術賞審査会で技術賞受賞候補について審議を行い、理事会の承認のうえ、受賞技術を決定する。
- (8) 審査の実施細目は別途定める。

■審査結果

平成 19 年度地域安全学会技術賞

審査会による審議の結果、以下の 1 点の技術の応募者が選出された。

- ・「住民の地震対策を誘導する教材の開発と啓発・育成活動の実践」

福和伸夫（名古屋大学大学院環境学研究科）

6. Information

(1) 安全工学シンポジウム 2008 ー安全工学の横断的展開ー

主催：日本学術会議総合工学委員会

共催：地域安全学会他（幹事学会：土木学会）

会期：2008年7月10日（木）、11日（金）の2日間

会場：日本学術会議 講堂・会議室（東京都港区六本木7-22-34 電話 03-3403-6291）

【交通】地下鉄千代田線「乃木坂」駅下車すぐ

特別講演：2題

7月10日（木）13時～14時 山本良一氏（東京大学生産技術研究所）

7月11日（金）13時～14時 未定

パネルディスカッション：2題

7月10日（木）14時20分～17時「新設運輸安全委員会に期待する」

7月11日（金）14時20分～17時「安全の心理学」

オーガナイズドセッション：11題

7月10日（木）9時40分～16時20分

- ・ 巨大大事故災害の問題
- ・ 巨大地震における火災危険とその対策
- ・ 組織の危機管理と情報開示
- ・ 安全学の体系化と安全学教育
- ・ 交通インフラの維持管理と安全性

7月11日（金）9時40分～16時20分

- ・ 事故防止のあり方を考える
- ・ 大学の実験室に於ける環境安全について
- ・ テロ対策について
- ・ 原子力施設の耐震安全
- ・ 電気設備の障害・災害対策の基礎技術
- ・ 陸・海・空の横断的な視点から高安全度交通システムの実現に取り組む

一般セッション：65題（7月10日（木）、11日（金）両日とも9時40分～17時）

参加費：入場無料。講演予稿集は当日会場で実費頒布

（1部5,000円、ただし学生は1部2,000円で頒布いたします）

懇親会：7月10日（木）18時～20時「はあといん乃木坂」、会費4,000円

申し込み方法：自由参加。当日直接ご来場下さい。

問合先：社団法人 土木学会 安全工学シンポジウム担当：岩西(iwanishi@jsce.or.jp)

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外堀公園内）

電話：03-3355-3559、FAX：03-5379-0125

最新の情報はホームページでご確認ください。：<http://www.jsce.or.jp/committee/csp/>

※シンポジウムの詳細プログラムを随時公開いたしますのでご覧下さい。



地域安全学会ニューズレター
第 63 号 2008 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局
〒100-6307 東京都千代田区丸の内 2-4-1
丸の内ビルディング 7 階 725
(財) 都市防災研究所内
e-mail : iss@iss.info
URL : www.iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ（www.iss.info）をご覧ください。